

IR DAY **2024**

化学品事業

AGC株式会社 2024年6月4日



目次



AGC

1. 化学品事業の概要	P.3
2. 各サブセグメントの事業戦略 —————	P.8
■ エッセンシャルケミカルズ ――――	P.9
■ パフォーマンスケミカルズ ――――	P.15
3. 業績目標 ————————————————————————————————————	P.22
4 . PFAS規制について	P.24
5. 付属資料 ————————————————————————————————————	P.27



1. 化学品事業の概要

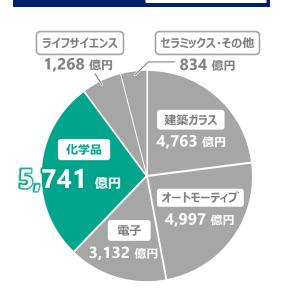
化学品事業の事業規模



■ エッセンシャルケミカルズとパフォーマンスケミカルズの2つのサブセグメントより構成

2023年 売上高 (億円)

AGCグループ 2兆193億円



化学品事業のサブセグメントと主な事業内容

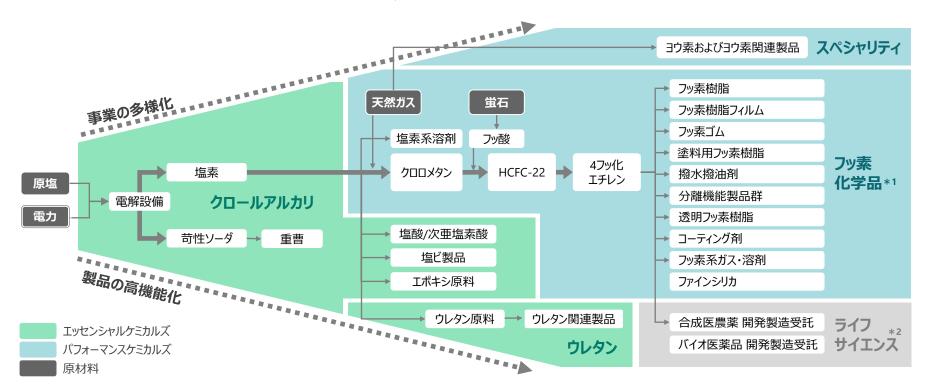
エッセンシャルケミカルズ (4,028億円)					
事業区分	主要製品	主な需要分野			
クロールアルカリ	苛性ソーダ、塩化ビニル樹脂 など	化学繊維紙/パルプ	■ 建築 など		
ウレタン	ポリオール、シーラント原料 など	建築自動車	■ 電子機器	など	
パフォーマンスケミカルズ (1,669億円)					

事業区分 主要製品 主な需要分野 フッ素樹脂、フッ素樹脂フィルム、 ■ 輸送機器 ■ エネルギー ■農業 フッ素化学品* フッ素ゴム、塗料用フッ素樹脂、 ■電子 ■ 航空宇宙 建築 ■ 繊維/紙 など フッ素系ガス・溶剤 など スペシャリティ ヨウ素およびヨウ素関連製品 ■ 医療/医薬品 ■ 精密/電気機器 など

化学品事業のプロダクトフロー



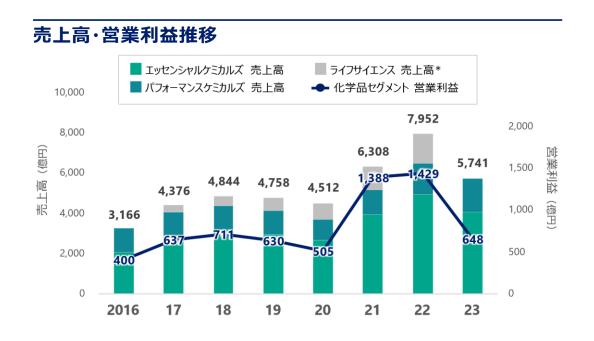
■ ガラス原料であるソーダ灰の自給を起点に100年をかけて形成された独自のケミカルチェーン

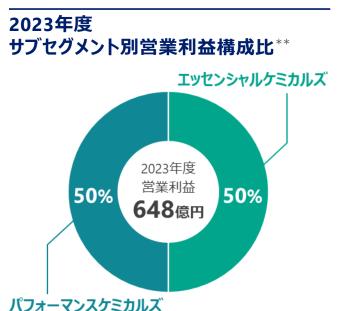


化学品事業の業績推移



■ 2023年度は東南アジアのクロールアルカリ市況低迷の影響を受け一時的に減益も、 両サブセグメントともに積極投資により事業規模は順調に拡大





化学品事業の歴史



1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 2030 1917 牧山工場でソーダ灰生産開始 1974 鹿島工場 操業開始 2002 北九州工場製造停止



1966 タイで電解操業開始

1959 千葉工場 操業開始

1974 北九州に隔膜法電解を新設

1975 イン交換膜フレミオン開発

1989 インドネシア 電解操業開始 2012 鹿島電解および鹿島塩ビモノマーから撤退

2017 タイのクロールアルカリ・塩ビ製造会社ビニタイ社を 買収

> 2022 東南アジアでクロールアルカリ事業子会社を 再編し、AGCビニタイ設立

1964 70ン11,12製造開始

1972 世界で初めTETFEを開発

2014 空調機器向け次世代冷媒「AMOLEA」を開発 2017 分離機能製品群「FORBLUE™」ファミリーを

新規立ちあげ

1982 塗料用フッ素樹脂「ルミフロン」発売開始

1991 代替フロン「アサヒクリンAK-225」の製造を開始

2007 英国でETFEの海外生産を開始





2. 各サブセグメントの事業戦略

- エッセンシャルケミカルズ
- **■** パフォーマンスケミカルズ

エッセンシャルケミカルズ | 主要製品



- クロールアルカリ製品である苛性ソーダ・塩化ビニル樹脂(PVC)・エピクロロヒドリンは、 成長市場である東南アジアにおいてトップシェアを持つ
- ポリオールや変成シリコーンなど、ウレタン関連製品も展開





原料となる塩の川

主な用途: 化学繊維、紙・パルプ

塩化ビニル樹脂



東南アジア No.1

主众用涂:水道管、雷線

エピクロロヒドリン



主な用途:接着剤、塗料、電子材料

重曹



主な用途:医薬品、入浴剤、ふくらし粉

ポリオール



主な用途: ウレタンフォーム、エラストマー、接着剤

変成シリコーン

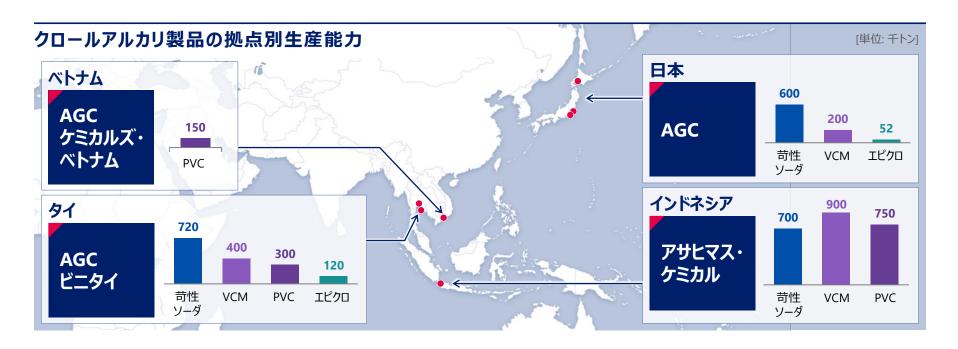


主な用途:シーリング材、接着剤

エッセンシャルケミカルズ | 地域展開



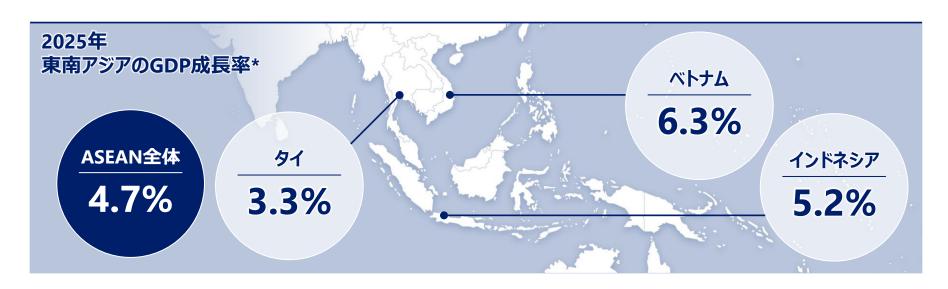
- 東南アジアと日本で事業を展開
- 成長市場である東南アジアでクロールアルカリ事業を拡大



エッセンシャルケミカルズ | 需給バランスの見通し



- 東南アジアの苛性ソーダ・塩化ビニル樹脂の需要は、およそ年平均4%拡大引き続きクロールアルカリ製品の輸入超地域となる見通し
- 苛性ソーダはアルミナ・ニッケル等の大型プロジェクトが需要を押上げる見通し
- 塩化ビニル樹脂はインフラ投資等によりGDPに合わせた需要の伸びが期待できる



エッセンシャルケミカルズ | ありたい姿とAGCの強み





ありたい姿

成長する東南アジア市場へ 安定的に製品を提供し、 地域の成長、発展に寄与する



強み

- 1. 東南アジア最大の生産能力による高いシェア
- 2. 長年築いてきた確固とした販売・物流網による安定した販売・供給力
- 3. 高いオペレーション技術による 安定生産

エッセンシャルケミカルズ | 戦略と施策



戦略

東南アジア地域 集中戦略の推進

2 事業基盤の更なる強化

3 気候変動対策推進による サステナビリティ向上

施策

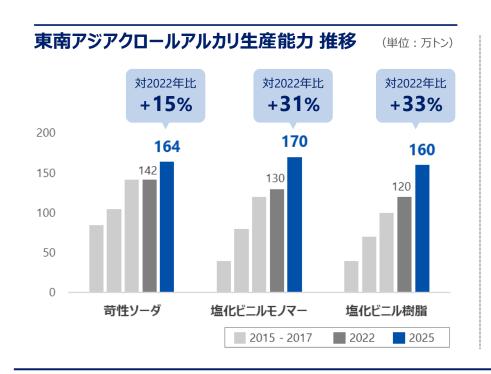
- タイでクロールアルカリ製品製造設備を増強*
- 東南アジア地域の各拠点間の連携をさらに強化

- 製造プラントのDX化等による安定操業体制の強化
- 販売・物流網の更なる開拓・確保による 安定供給体制の強化
- 自家発電設備におけるバイオマス混焼の検討
- 再エネ由来の電力購入契約締結
- バイオ由来製品の販売拡大

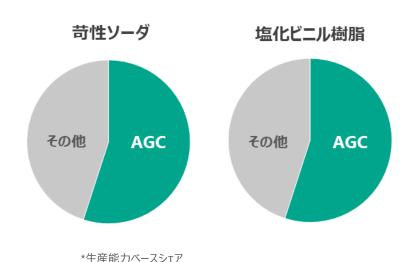
エッセンシャルケミカルズ | 東南アジアの生産能力とシェア



■ 現在建設中のタイのプラント増強により、東南アジアでの当社ポジションは更に上昇



東南アジアにおけるシェア*(増設後)



生産能力ペースジェア (苛性ソーダは域内に豪州/NZを含まず、塩ビは域内に豪州/NZを含む)



2. 各サブセグメントの事業戦略

- **■** エッセンシャルケミカルズ
- パフォーマンスケミカルズ

パフォーマンスケミカルズ | 主要製品



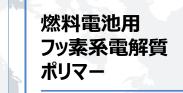
- 売上高のほとんどをフッ素製品が占め、グローバルトップシェアの製品を多く持つ
- 脱炭素社会やデジタル社会を実現するためには欠かせない素材







主な用途: 膜建築物・エレクトロニクス用離形フィルム



世界 No.1*



クロアリ電解用 イオン交換膜



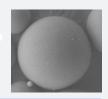
世界 No.1*

現場塗装塗料用 フッ素樹脂



世界 No.1*

ファインシリカ

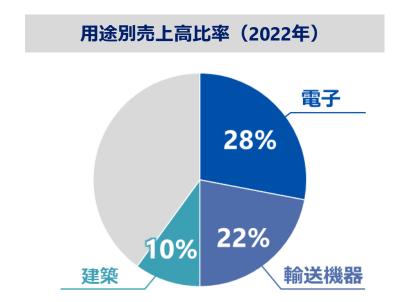


主な用途: 化粧品、分析機器、電子材料、塗料

パフォーマンスケミカルズ | 主要な需要分野



- フッ素製品の需要の約6割は、 主用途である電子、自動車・航空機などの輸送機器、建築分野
- 残りは多様且つ特殊な分野の需要の積み上げから成り立っている





パフォーマンスケミカルズ | ありたい姿とAGCの強み





ありたい姿

環境問題をはじめとする社会課題への対応を通じて培ってきた技術を更に深化・発展させ、持続可能な社会の実現に貢献し、成長する



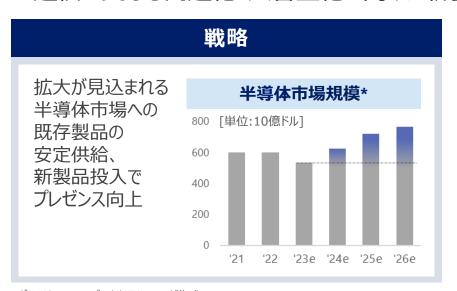
強み

- 1. 高収益な特定市場でのNo.1を目指す グローバルニッチ戦略
- 製造、販売、商品開発機能を グローバルに展開
- 3. 最先端分野ニーズを取り込む 新製品・技術開発力

パフォーマンスケミカルズ | 戦略と施策(半導体関連製品)



- 半導体の高機能化に伴い、素材への要求スペックが高度化。 特殊な物性を持つフッ素製品の需要は拡大
- 通信の更なる高速化・大容量化に向けた新製品・技術を開発



施策

国内の高機能樹脂製品の製造能力を増強**

■ 半導体関連向けを始めとした 旺盛な需要に対応することを 目的に、千葉工場の フッ素製品の製造能力を増強

投資金額

約350億円

稼働開始 予定 2025年 第二四半期

市場の要請に応じた商品投入

■ プリント配線板材料としてのFluon+™ EA-2000、 無機フィラーとしてのシリカ製品など

^{*} グラフはGartnerデータを元にAGCが作成 Gartner®, Semiconductors and Electronics Forecast Database, Worldwide, 3Q23 Update, Rajeev Rajput et al., 4 October 2023, Semiconductor Revenue by Electronic Equipment basis.

GARTNERは、Gartner Inc.または関連会社の米国およびその他の国における登録商標およびサービスマークであり、同社の許可に基づいて使用しています。 All rights reserved.

パフォーマンスケミカルズ | 戦略と施策(水素関連市場)



■ 来たる水素社会に向け、水素を作る「水電解装置」、 水素を使う「燃料電池」製造時に優れたパフォーマンスを発揮する素材を供給

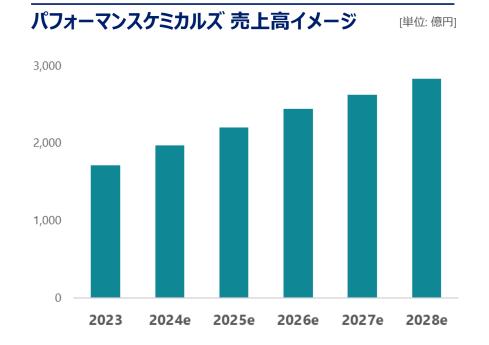
戦略 ■ 燃料電池用フッ素系電解質ポリマー、水素製造用 イオン交換膜の圧倒的No.1ポジションを確立 水素需要の推移見诵し* ■ アンモニア製造 600 合成燃料製造 産業 300 200 運輸 発雷 石油製造 2060 2070 2040 水素関連:アンモニア、メタネーション等を通じた合成燃料を含む

施策 グリーン水素製造に適したフッ素系イオン交換膜の 製造設備を新設** ■ 第三の国内化学品拠点として 北九州事業所に製造設備を新設 ■ 投資金額は約150億円 北九州 事業所 ■ 稼働開始は2026年 第二四半期を予定

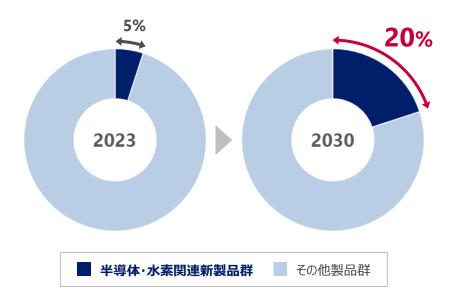
パフォーマンスケミカルズ | 中長期的な業績イメージ



■ 既存用途に加え、最先端ニーズを取り込み、2030年には売上高3,000億円以上を目指す



半導体・水素関連新製品群の売上高比率イメージ



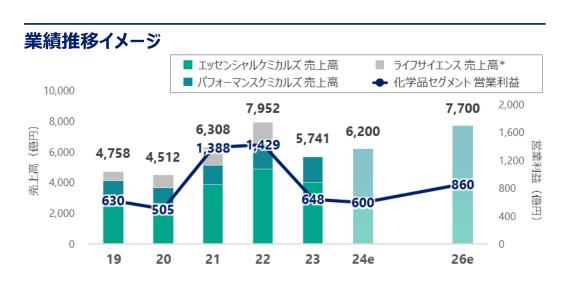


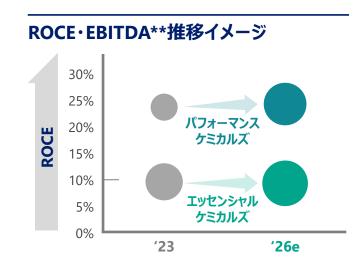
3. 業績目標

化学品セグメントの業績目標



- エッセンシャルケミカルズは成長市場である東南アジアへの地域集中戦略を継続
- パフォーマンスケミカルズは半導体を含むエレクトロニクス、環境・エネルギー領域へ高機能素材を提供 更なる高付加価値化と事業領域拡大で、グローバルニッチ市場の需要を取りこむ
- 2026年には営業利益860億円、ROCEはエッセンシャルケミカルズで10%程度、パフォーマンスケミカルズで20%以上を維持





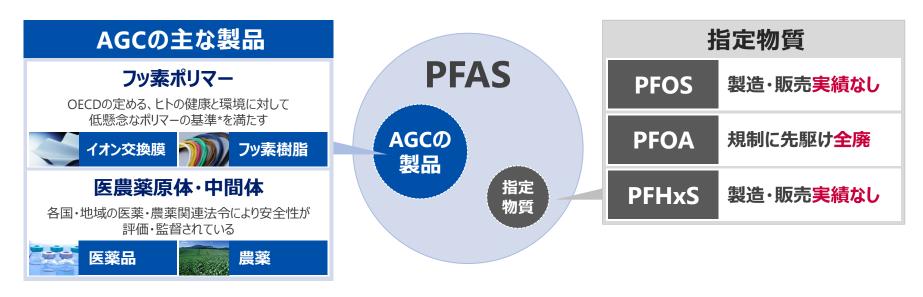


4. PFAS規制について

PFASと規制



- PFAS(約12,000種類のフッ素化合物の総称)のうち3物質がストックホルム条約において残留性有機汚染物質に指定されており、現在AGCではいずれの当該指定物質も取り扱っていない
- AGCグループとして企業の社会的責任を果たすため、科学的根拠に基づき、事業活動で生じる環境負荷の最小化と製品を通じた環境課題の解決に向け取り組んでいる



25

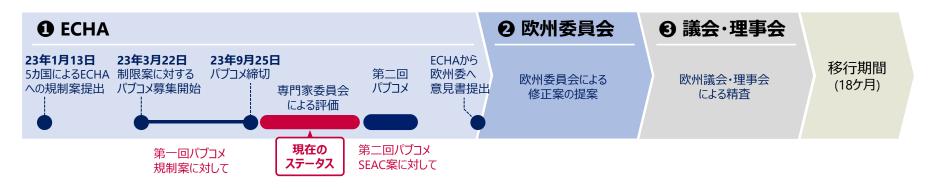
欧州のPFAS規制動向



- 現在規制案についてECHA(欧州化学品庁)の専門委員会が検討中
- 多くのパブリックコメント(パブコメ)が寄せられ、ECHAの専門家委員会による法案の評価プロセスに時間を要しており、第二回のパブコメ募集時期および、その後の規制スケジュールは不透明。
- AGCグループも第一回のパブリックコメントを提出した。

欧州における 規制検討プロセスの流れ

- ECHAによる2回のパブコメを経て、専門家委員会が最終意見を作成/提出
- ② 欧州委員会は提出された最終意見を基に法案作成、加盟国で構成のREACH委員会で審議/採択
- ❸ 採択された法案は欧州議会・理事会による精査を経て発効





5. 付属資料

©AGC Inc.

化学品事業の設備投資案件



■ 成長分野への積極投資により、さらなる事業規模拡大を目指す

製品	設備投資内容	投資金額	稼働開始予定	
苛性ソーダ・塩ビ (タイ)	 インドシナ半島におけるクロール・アルカリ事業統合会社「AGC Vinythai Public Company Limited」のタイ2拠点におけるクロールアルカリ製品の生産能力を増強 当社グループとして過去最大の金額規模の設備投資 	1,000億円 以上	2025年 第1四半期	
フッ素関連製品(千葉)	■ 半導体関連向けを始めとした旺盛な需要に対応することを目的に、 千葉工場の高機能樹脂製品の製造能力を増強	約350億円	2025年 第2四半期	
フッ素系イオン交換膜(北九州)	グリーン水素*製造に適したフッ素系イオン交換膜FORBLUE™ S シリーズの製造設備を新設千葉工場、鹿島工場に次ぐ第三の国内化学品拠点となる	約150億円	2026年6月	

28

パフォーマンスケミカルズ | 需要分野別の景況感



■ 欧米を中心とした各用途の堅調な需要増に加えて新興国を中心とした電子、輸送機器、建築、エネルギー関連などの分野での需要拡大及び新規用途拡大により、更なる収益の拡大を図る

需要分野		足元の状況	今後の需要見通し		
電子	半導体	半導体サイクルは底を打ち、需要が徐々に回復	5G関連やデータセンターの需要が 堅調に推移し、成長を継続		
建築		高金利、資材価格高騰、 中国不動産市況等を受け需要低迷	環境意識の高まりを受け、 長期的に需要は堅調に推移		
輸送機器	自動車	19年並みに回復するとともに、 EV化の流れを受け需要拡大	需要は堅調に推移		
	航空機	COVID-19の影響から回復基調	24年末には19年を超える見通し。以降も堅調 な成長を見込む		

パフォーマンスケミカルズ | フッ素製品の優れた特性



- 2つ以上の優れた特性 を有するフッ素製品は、 他製品と差別化され、 幅広い産業分野で使 用される
- 特性を巧みにコントロールする技術で新たな市場開拓を継続

フッ素化学製品の主な特性と用途例		耐熱性耐寒性	耐薬品性	耐候性耐久性	撥水撥油 非粘着性	機械的 特性	電気特性	光学特性
自動車輸送機器	オイルフィルター 電線被覆/燃料ホース	•		•	•	•	•	
	摺動部品 Oリング				•		•	
	半導体パッケージング 半導体製造設備部品	•			•		•	
	光学レンズ				•			•
エレクトロニクス 情報通信	タッチパネル LED製造工程用フィルム							
	プリント配線板 電線被覆				•			
	OA機器部品				•			
建築材料	塗料 内装材/外装材 金属建材コーティング 屋根/外壁/膜構造物							
エネルギー	太陽電池部材発電所ケーブル	•		•		•	•	
インフラ プラント	橋梁/鉄塔塗装 煙突/配管シーリング		•					
産業資材	各種シール材 チューブ/ホース							
医療・ 生活産業	手術着/医療用マスク 食品パッケージ/容器							

パフォーマンスケミカルズ | サプライチェーン上の位置づけ



- 最終消費材市場からは認識しにくいサプライチェーン上流に位置
- 市場の需要動向とそれが当グループに影響をもたらすタイミングにはタイムラグが発生する傾向



パフォーマンスケミカルズ | AGCグループの強み



グローバルニッチ戦略

高収益な事業基盤

高機能材料の開発や 量産技術を活かし、 世界の特定市場でのNo.1を 目指すグローバルニッチ戦略

製造、マーケティング、 テクニカルサービス、 商品開発機能をグローバルに展開

グローバル展開

最先端分野ニーズを含む グローバルニッチ市場での需要を 取り込み、高収益な事業基盤を確立

新製品·技術開発力

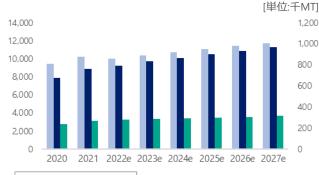
パフォーマンスケミカルズ | グローバルニッチ戦略



- 主力製品であるフッ素樹脂は、特殊な物性を用いた用途に使用され、販売価格水準が高い
- 自動車、半導体などの成長市場における製品の高機能化により、 素材への要求スペックが高度化し、市場は拡大傾向

樹脂市場におけるフッ素樹脂 汎用 エンジニアリング 全樹脂市場 - ポリアミド (PA) プラスチック エンジニアリング - ポリカーボネート (PC) 市場規模:3億5/年 プラスチック 市場規模:1,000万% …など 市場規模:900万% 流通価格: 熱可塑性樹脂 汎用プラスチック - ポリフェニレンスルフィド(PPS) 400-1,000円/Kg 液晶ポリマー (LCP) 流通価格: 100-400円/Kg 熱硬化性樹脂 スーパー - ポリイミド (PI) エンジニアリング - ポリTチレン (PF) …など - フェノール樹脂 (PF) プラスチック ー ポリプロピレン(PP) メラミン樹脂 (MF) フッ素樹脂 塩化ビニル樹脂(PVC) 市場規模:100万% …など …など 市場規模: 20~30万% 流诵価格: 1,000円/Kg~ 流通価格: 3,000-4,000円/Kg

エンジニアリングプラスチックおよび フッ素樹脂の市場推移



- ■汎用エンプラ(左軸) ■スーパーエンプラ
- ■スーハーエンノフ
- ■フッ素樹脂

出典:富士経済「2023年エン プラ市場の展望とグロー バル戦略」(上下巻)

パフォーマンスケミカルズ | グローバル展開



- 製造、マーケティング、テクニカルサービス、商品開発機能をグローバルに展開
- 中長期テーマに集中的に取り組むため、各エリアでの戦略立案体制構築を検討



パフォーマンスケミカルズ | 新製品・技術開発力



- 水素、半導体など成長市場における製品の高機能化により、素材に対する要求スペックが高度化
- 長年培ったフッ素技術により新製品・技術を開発しそれらのニーズに対応

水素ビジネス

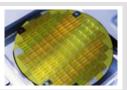
半導体ビジネス

消費材

- 水素発電
- 代替燃料の原料
- 燃料電池自動車



- 通信の高速・大容量化
- ジリ波帯利用拡大



求められる技術

- 水素を作る水電解装置
- 水素を使う燃料電池

誘電材料の低誘電率・低誘電正接の達成、 伝送損失の低減

必要素材

- 水電解時の電解膜
- 燃料電池用 電解質ポリマー溶液



- プリント配線板材料としての EA-2000
- 無機フィラーとしてのシリカ製品



1 燃料電池用フッ素系電解質ポリマー





- 燃料電池車の普及、水素社会実現に向けた技術発展により、需要拡大が加速
- AGCでは燃料電池に欠かせない燃料電池用フッ素系電解質ポリマーを供給
- 差別化された技術力で実現した高発電性能と耐久性を両立させた高品質により、 **圧倒的No.1ポジション**を確立



AGCグループの強み

従来品の課題

電解質の耐熱性が不十分なために電池の冷却が必要

発電時に電解質が劣化

触媒として白金が使用されて いるためコストアップ

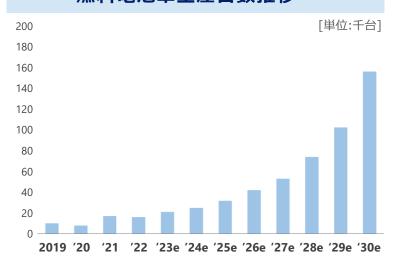
AGCグループの強み

耐熱性に優れた電解質を開発

独自技術(NPC*1技術)により 耐久性も劇的に向 ト

白金使用量を大幅に低減する 分子設計技術

燃料電池車生産台数推移*2



2 フッ素系スルホン酸イオン交換膜





- 再工ネ由来の電力需要の拡大に伴い、水素生産向け水電解装置導入が加速
- AGCは燃料電池向け電解質技術とクロアリ電解向けイオン交換膜技術を集結し、 世界トップの高効率・安全性能をもつ水電解向けの電解質膜を供給



AGCグループの強み

小さい電気抵抗で水電解の効率向上

水素リークが低く、水電解の安全運転に好適

補強体によりハンドリング性、寸法安定性に優れる

水素需要の推移* 600 アンモニア 製浩 500 □ 合成燃料 百万卜 400 製诰 300 産業 民生 200 運輸 100 発雷 石油製造 2019 2030 2040 2050 2060 2070

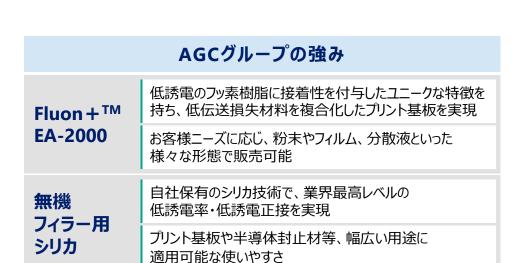
水素関連:アンモニア、メタネーション等を通じた合成燃料を含む

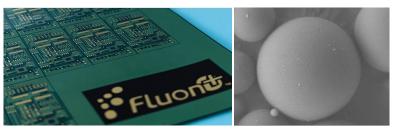
今後成長が 期待される製品

3 Fluon+™ EA-2000 / 無機フィラー用シリカ



■ 通信の高速化・大容量化に伴い、基板材料の 低誘電率・低誘電正接・伝送損失の低減が 求められている







^{*} グラフはGartnerデータを元にAGCが作成 Gartner®, Semiconductors and Electronics Forecast Database, Worldwide, 3Q23 Update, Rajeev Rajput et al., 4 October 2023, Semiconductor Revenue by Electronic Equipment basis.

GARTNERは、Gartner Inc.または関連会社の米国およびその他の国における登録商標およびサービスマークであり、同社の許可に基づいて使用しています。 All rights reserved.

38

フッ素樹脂 Fluon® ETFEについて



- フッ素の**優れた特性を保持しつつ、容易な成形加工性を兼ね備えた**フッ素樹脂。主用途の輸送機器、電子、建築、エネルギー分野のほか、**多様且つ特殊な産業分野で幅広く使用**される
- 押出成形、射出成形、粉体コーティングが可能。電線被覆、チューブ、コーティング材料など、耐熱性、耐薬品性、絶縁性等が要求される厳しい使用環境で活用
- ETFEはフィルム加工も容易。膜構造物材料や様々な分野の離型フィルムとして活用







ETFE製品の特徴・強み



ETFEのトータルソリューションプロバイダー



- 販売開始50年の信頼
- グローバル販売シェア*70%以上
- 圧倒的な製造能力



- 原料樹脂から一貫生産
- No.1ETFEフィルムサプライヤーとして 産業向け離型用途、 表面保護用途から膜構造物材料 までをフルラインナップ



- +αの機能を付与し適用領域拡大
- 接着性を付与したAdhesiveシリーズ
- 充填剤を添加し機能付与したMPC (Melt Processable Compounds) シリーズ

- 2021年製造能力を2020年対比1.5倍に増強
- 拡大した**半導体、輸送機器、** エレクトロニクス・情報通信市場等の需要の担い手に

- 昨今のETFE以外のフッ素樹脂不足に伴い、 他のフッ素樹脂からの切替検討が増加
- グローバルニッチトップサプライヤーとして、 次の増産検討も既に検討着手

パフォーマンスケミカルズ | 全社戦略上の位置づけ



■ パフォーマンスケミカルズは各種先端領域*に対し高機能素材を提供することから、 新中期経営計画「AGC plus-2026 」より新たに戦略事業へ位置づけを変更

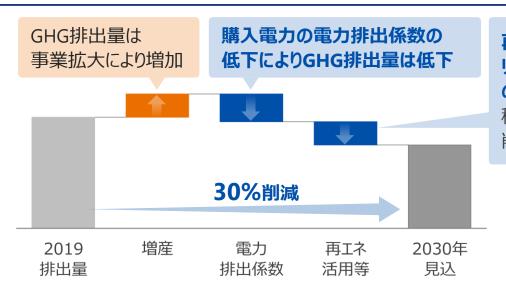


サステナビリティ社会への貢献 | GHG排出削減



- 国内外関係会社含めグローバルでGHG排出削減に取り組んでいる
- 事業拡大による排出量増加分はあるものの、再生可能エネルギーの利用その他により 2030年GHG排出量(Scope1+2)30%削減(2019年比)のロードマップを描いている

GHG排出量の 将来動向イメージ (Scope1+2)



再生可能エネルギーの利用、 リサイクル、省エネ、フロン類 の排出削減等の施策により、 積極的にGHG排出量の 削減を進める

サステナビリティ社会への貢献



1

GHG排出削減に貢献する 製品、技術の開発推進 PEM型水電解用 フッ素系イオン交換膜



PEM型水電解用 フッ素系イオン交換膜





2

製品の長寿命化、 リサイクル活動による 新規採掘資源利用の削減 施設園芸用 フッ素樹脂フィルム





フッ素資源の有効活用



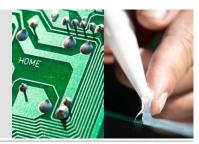
サステナビリティ社会への貢献



3 バイオ原料導入による ライフサイクル全体から発生する GHG排出量削減への貢献



エポキシ樹脂用バイオ由来原料エピクロロヒドリン



4

カーボンニュートラル燃料導入による GHG排出削減検討 アサヒマス・ケミカル社 自家火力発電における PKS混焼検討



5

東南アジア地域における、 マングローブ植林活動、 サンゴ礁保護活動の積極推進

AGCビニタイ社 サンゴ礁保護プロジェクト



化学品事業が提供する社会的価値:例



■ 全製品・技術により、3つの社会的価値すべての分野に貢献する

Blue planet



低GWP ガス溶剤



バイオ原料由来 エピクロロヒドリン



高耐久塗料用

フッ素樹脂

回収蛍石 利用技術



樹脂リサイクル 技術(開発)





水素関連 素材



高耐久農業用フッ素フィルム

塩ビ配管 原料



次亜塩素酸 ソーダ



高電力効率

雷解膜

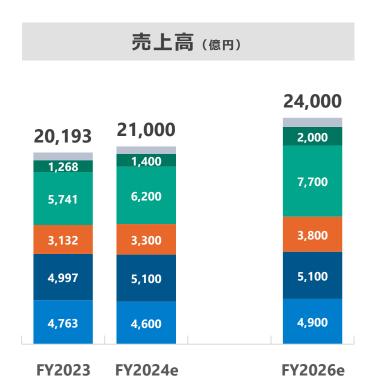
ウレタン 原料

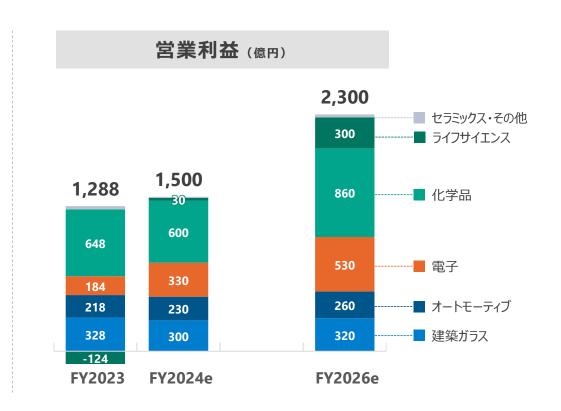
Innovation

Well-being

セグメント別 業績イメージ





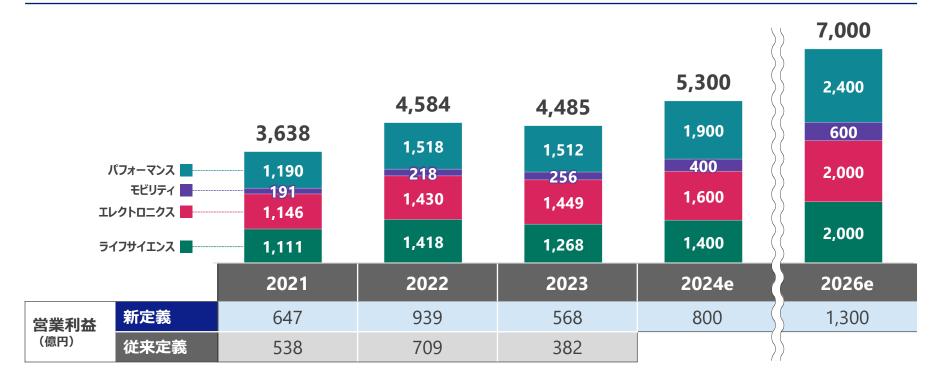


46

戦略事業 業績イメージ



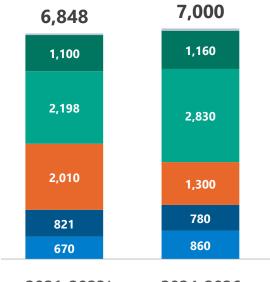
戦略事業 売上高 推移 (億円)



AGC plus-2026 設備投資·減価償却費



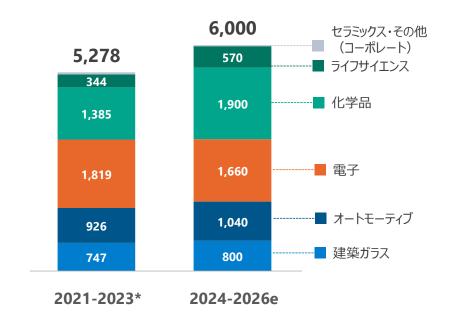




2021-2023*

2024-2026e

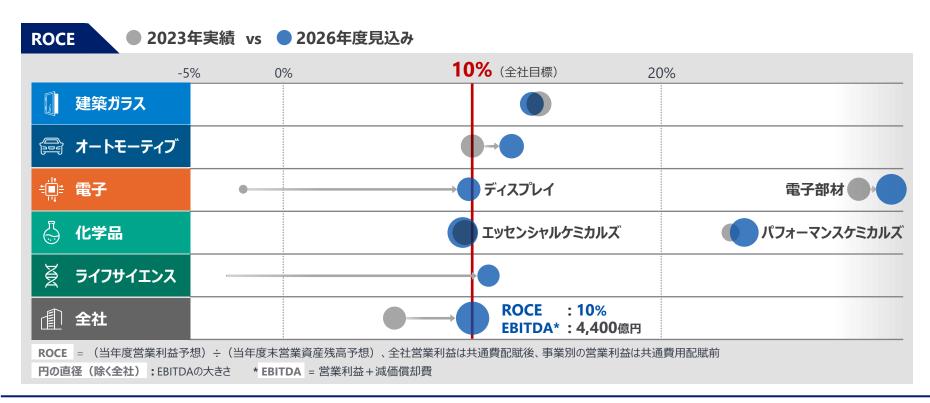
減価償却費 (億円)



各事業のROCE



■ 引き続き全社ROCE **10%以上**を目指す



予測に関する注意事項:

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を 勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時 点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものであ りますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性 に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

